



つゝじヶ丘だより東京

つゝじヶ丘同窓会東京支部会報



発行 函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部 会長 佐々木 太郎
 〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL・FAX 03-5609-9881
 メールアドレス <jimu@td-tokyo.com>
 印刷所 三美印刷株式会社 題字 細見 紀子(14回生)

ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>

新設函館西高の 今後を思う

会長 佐々木太郎 (14回生)



10月5日、五島軒で開催されたつゝじヶ丘同窓会の総会に出席してまいりました。中山会長の挨拶で幕を開け、現役西高生41名による吹奏楽の演奏の後、懇親会へと型通り進みましたが、うらやましかったのは、ことし西高を卒業したばかりの68回生が幹事団に入り、景品のプレゼンターなどで活躍していることでした。東京支部の総会では一番若い出席者でも35回生くらいだからです。

最大の話題は、来年4月に新設される高校の校名の行方でした。1月のアンケートでは、西高の父兄やOBからは今の校名「函館西高等学校」を残す案が圧倒的に支持されていました。統合後の校舎が西高であること、稜北高の在校生は卒業まで現在の稜北高で勉強するため、新設といっても西高は残り、2年後に稜北高校が消滅する形になります。実は校名が「函館西高等学校」となることが、同窓会総会当日の北海道議会で決定されることになっておりました。しかし9月に発生した

北海道胆振東部地震とその後の全道停電の影響で道議会が延期になり、総会の場で披露するという劇的な演出はできませんでした。

総会の前日、数名の同期生とともに西高を訪れ、今年赴任された佐藤裕之校長にご挨拶、藤島尚子教頭に校舎を限なくご案内していただきました。西高の校舎に入るのは50数年ぶりです。私を通ったのは、昭和2年建設の古色蒼然たる校舎でしたが、昭和58年から使用している今の校舎は明るくきれいでした。斜面に建っている変則7階建て、屋上からの函館港や駒ヶ岳などの眺望は素晴らしいものです。来年からの新しい制服も校内に展示されておりました。生徒の意見も取り入れた、なかなか斬新なデザインです。



放課後の時間帯で、教室に残っている生徒たちやクラブ活動をしている人たちは我々が近づくと、みな手を止めて元気に「こんにちわ」と挨拶してくれました。自分たちの高校時代にはなかった明るさと礼儀正しさが強く印象に残りました。

統合の大枠が決まっています、次の課題は、募集定員6クラスの人数が集まるか

ということですが。現在は西高も稜北高も1学年3クラスです。来年稜北高が募集をやめただけで今の2倍の人数が西高に殺到するでしょう。新設西高としての新しい魅力を付け加えないと無理ではないかと危惧しております。我々同窓生も何か応援できることがあればお手伝いしたいのですが、良いアイデアをみんなまでひねり出す必要があると思われまます。せつかく残った北海道函館西高等学校の名前に恥じない立派な学校にしていきたいものです。

つゝじヶ丘同窓会 東京支部 第18回総会・懇親会

日 時 平成 31 年 5 月 11 日 (土曜日) 予定
 午前 11 時 受付・12 時 開宴
 場 所 文京区 ホテル椿山荘東京 4F 雅
 会 費 10,000 円

長谷川圭作先生を悼む

佐藤雅英（18 回生）



故 長谷川先生

10 月 7 日の同期会の際、8 組の佐藤泰志の話題から、ひと月前に

80 歳で亡くなった 3 年時の担任だった長谷川先生の話が出た。ご自分の新婚旅行中、喫煙行為で 18 人もの停学者が出た、その中に教え子の泰志がいた。

さらに泰志は停学解除後、すぐに今度はパチンコ店に出入りしているところを見つかり、無期停学処分を受けた。だがこの処分については同級生の記憶にはなかった。

なぜなら、泰志は 2 学期から、頭を丸坊主にして、卒業まで休まず登校したからである。これは長谷川先生が、熱血ドラマよろしく、泰志に寄り添い、本人を含め家族へのきめ細かな働きかけが成しえた結果と考える。

昭和 41 年「青春の記憶」で第 4 回有島青少年文芸賞優秀作を受賞後も、高校在学中も、またその後も 5 回もの芥川賞ノミネートをはじめとして文学の世界で生きることが出来たのは、長谷川先生の献身的な

教師としての指導の賜物があつたからこそ考える。私自身は 1 年から 2 年生の生徒会活動の際、長谷川先生から少しご指導いただいた、それ以外記憶が定かでない。

しかし、今般同期会開催にあたり、8 組の有志の記憶を呼び起こしてもらい、改めて、長谷川圭作先生の素晴らしいさに触れ、人間誰でも寿命があり、いつまでも元気というわけにはいかないが、28 年前泰志が亡くなった際や、お元気なうちにもっともつと先生とお話をしたかつたと思つたのは私だけではない。

投稿

波瀾万丈の軌跡 ② アフリカ・ケニアに生きて 47 年

岸田信高（11 回生）



経営に従事している。

【岸田さんは秋田大学鉱山学部 4 年在学中に研究生としてアフリカに渡り、現在まで宝石鉱山の

脱獄と軍事裁判
ザイル国から最後の調査地ザン

ビアへの途中、スパイ容疑で牢獄に収監されてしまった。牢獄の中は、比較的広い部屋でベッドはなくコンクリートの床に筵が 2 枚敷いてあつた。私の持っていた衣類、カバン、お金は返してくれたが、全ての書類とズボンのベルト、靴は没収される。食事はビスケット、パン、ミルクティが支給され、夜はウガリ（玉蜀黍の粉を団子状に練ったもの）と野菜。監獄のトイレは使える代物ではないので、外で用便を足そうとすると靴を出してくれた。

牢獄の同居人はザイル（現コンゴ共和国）の残兵だといひ、つたないスワヒリ語で会話を交わす。彼の女房が赤子を背負い、毎日、アルミの弁当箱に詰めた昼食を届けに来る。そこで、弁当箱に日本大使館に窮状を訴える手紙を忍ばせることにした。一度目は発覚して看守にこつぴどく叱られ、二度目はうまくいったが、日本大使館が動くことはなかった。

クリスマスイブの日、私は脱獄を決意。用便を足すといつて靴を出してもらい、監視兵の目をくぐって走り、石塀に飛びついた。塀の上には空き瓶のかけらが刺してあり、手の平を切つて血が吹き出した。下を見ると 3 cm 以上はありそうだが、思い切つて飛び降りる。突然、大型のシェパードが吠えながら襲いかかつてきた。結局、逃亡劇は終わった。

獄舎に連れ戻され、食事は与えられず、クリスマス明けに将校に呼ばれた。殴られ、蹴られ、銃を向けら

れ、これで最後かと思つた。部屋に戻ると、体中の痛みがひどく、食事もままならず、寝たきりで過ごす。ここで命を落とすのは、母に申し訳ない、それだけを思つていた。

12 月 30 日、再び将校に呼ばれ、ルブンバシで軍事裁判にかけると申し渡される。護送列車に乗り込むと背広にネクタイの紳士も一緒で、彼が英語で話しかけてきたので私はこれまでの経緯を語つた。彼は軍政府の運輸大臣で、やはり軍事裁判にかけられるとのことだった。

容疑晴れて釈放、日本食で乾杯！
運輸大臣が、私のことを連行の将校に仏語で詳しく説明してくれた。おかげで、「このまま軍に連行し、軍事裁判にかけられれば銃殺もあり得る。しかし、市の警察に連行すれば、日本企業もあるからお前が本当に日本人か確かめられる」ということになった。

翌日、警察の独房に日商岩井の若い駐在員が訪ねてきた。秋田大鉱山学部卒のエンジニアに共通の知人がいることが分かり、日商岩井が身元保証の書類を作り、ようやく私は解放された。没収された書類も戻り、駐在員らと久々の日本食で乾杯。あの夜のことは一生忘れられない…。
数日後、バスで当初の目的地ザンビアへ行き、銅鉱山を見学。その後、列車でタンザニアへ向かった。

「タンザナイト鉱山」に投資を覚悟
タンザニア・アルーシャの町に到

着したのは 1 月 20 日。ある晩、バーで飲んでみると、ハンサムな青年が声をかけてきた。彼の父は、新発見の寶石タンザナイトを採掘しているという。翌日、彼の父デスザ氏に会い、すぐに日本への輸出を持ちかけた。1g 以下のタンザナイトの取引なら OK だという。実は昨日、米国ティファニー社と 2g 以上の輸出契約をしたばかりだったのだ。1 日違いで私は大きなチャンス逃したわけだが、契約書の作成に同意し、鉱山見学に行くことにした。そのうち運が向いてくるだろう。これが私の商取引の第一歩だった。



▶アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロ。タンザニアの北東部にあり、岸田さんも登頂した。

の光景を見ながら、私はいつの日かこんな鉱山で指揮をとる自分を夢見ていた。

アルーシヤに戻り、私は最後の投資のためにありつただけのドルを換金し、寄付金を貰った大学への寄贈や日本での販売なども考えて、宝石鉱物の買い付けも同時に行なった。帰国まであと 2 ヶ月、全力投球の覚悟だった。

鉱山師協同組合を結成

私のアフリカ渡航の目的は、将来的に稼働できる宝石鉱山の発見だった。が、すでに時間と資金が切迫していた。そんな時、ガラナ口部落のハジ・サクメがガーネットとクリソプレーズ(オーストラリアヒスイ)を持ち込み、発見者の村に案内してくれるという。すぐ彼らと会って話し合い、鉱山師協同組合を結成することにした。宝石のありかを知っている者がメンバーとなって採掘し、私が開発資金と機械を出資し、売り上げは平等に配分する構想だ。

大学に復学、物産販売で大儲け

3 月末、ようやくナイロビから日本行き飛行機に乗り込む。人生初の飛行機旅行である。帰国後は、東京、秋田、函館と旅を重ね、大学 4 年に復帰。しかし、私の頭の中は、いかに資金を作り、卒業後すぐ、タンザニアに戻るかでいっぱいだった。

秋田の百貨店で「アフリカ展」を開き、買付けてきた民芸品・毛皮・写真展示を行なうと大人気に。東京

ではアフリカ物産展を開き、物産販売で大儲け。1 週間毎に私の銀行口座には数十万円が入金され、当時付合っていた彼女と豪遊し、学問の道を踏み外しそうになったことも。

翌年、秋田大学の先輩より思わぬ話が舞い込んだ。タンザニアのカオリン鉱物を開発する会社を作らないかというのだ。当時、カオリン鉱物は、大学ノートをクリーム色に染めるなど、艶のあるコーティング材料としてなくてはならないものだった。そこで、「大和コーポレーション」という会社を設立し、東京・新橋に事務所を構えた。アフリカと南米の資源を日本でつなぐ構想で、まず南米の物産や宝石原石を輸入する業務から始めることにした。アフリカへの再出発は翌年 1 月と決めた、それまでは大学卒業に向けて単位取得に精を出すほかない。

再びアフリカへ、舞い戻った幸福感

1971 年 1 月、卒論らしき「アフリカ鉱工業調査・実習レポート」を提出し、教授の了解を貰って卒業式を待たずにナイロビに出発した。ナイロビからはバスで、タンザニア・アルーシヤへ。アフリカに舞い戻った幸福感で、私は心も体も弾んでいた。ハジ・サクメは今にも泣き出しそうな顔で私を迎えてくれた。鉱山師協同組合は、試掘していたクリソプレーズ鉱山が違法として警察沙汰になり、資金不足もあって解散してしまったという。日本から手紙を出し

ても一向に返事がなく、解散は想像していた。今までの苦勞を労うつもりで、いくばくかの金を彼らに渡し、首都ダルエスサラームへ向かう。

一転、暗闇のどん底に

今回の目的はカオリン鉱山の調査だ。鉱山局を採鉱権申請のために訪問すると、局長は私を覚えていて採鉱権発行を約束してくれた。次にジェトロの所長を訪ねると、新設された日本プラント協会の所長は秋田大学鉱山学部の出身だという。早速、訪ねると、ダルエス近郊のカオリン鉱床は日本プラント協会が調査開始予定のプロジェクトなので「降りてくれないか」という。日本の公的機関には到底逆らえない。失望と驚きで暗闇に突き落とされた思いだった。

「もし、このカオリン鉱床の品質がコーティングに不向きでも、陶器用には十分使用できそうなので、その場合には私に譲ってほしい」、そう言うのが精いっぱいだった。

有望な鉱山開発に本格着手

カオリン鉱床の開発が遠退いたので、代わりに有望な宝石鉱山開発と宝石原石の買い付けに着手するしかない。アルーシヤに戻り、古巣の安ホテルを事務所兼住居として使う体裁を整えていると、ハジ・サクメが興味ある情報を持ってきた。新しいタンザナイト鉱区を発見した二人組の男が、資金集めに新しいパートナーを探しているという。早

速、彼らと面会し、2 週間後に調査に行くこと約束した。そこで、中古の 4 輪駆動車を購入し、運転手を雇う。彼らの新設鉱区は、デスザ氏の鉱区と 1 km 程離れた谷間にあった。母岩のグラファイト(黒鉛)花崗岩の中に付着するタンザナイトは発見されていないが、表土の中に数個のタンザナイトが発見されたという。川の流れて運ばれてきたものかもしれないが、調査をしてみる価値はありそうだ。弁護士を通してパートナー契約を交わし、当面、鉱区の開発を手掘りでやってみることに決めた。

本格的に採掘する前に、私の住まいも見つけなければならぬ。定宿で知り合ったインド人青年の父親の農場に空き家があるという。早速その父親と会って、広い応接間と食堂、寝室、プールまである家を格安家賃で借りることができた。これで、全力投球で採掘事業に取り組める体制は整った。

社会主義政策で鉱山が国有化？

数か月後の 8 月半ば、東京の大和コーポレーションより悪い知らせが届いた。タンザナイトは日本のマーケットでは知名度が低く、宝石業界も販売に消極的で売れないという。そこで、これまでに買い付けたタンザナイト原石をナイロビで売ることにしたが、世界的に消費が伸び悩んでいて販売成果は上がらなかった。

さらに、タンザナイト鉱山に戻っ

た私を、脳天が打ち砕かれるようなニュースが待っていた。タンザニア政府の社会主義政策によって、私たちの鉱山は翌年 7、8 月に国有化されてしまうかもしれないというのだ。この頃、アフリカには社会主義イデオロギーが吹き荒れ始めていた。とりわけ、タンザニアのニエレレ大統領はアフリカ社会主義の信奉者で、1972 年 8 月以降、大鉱山、ビル、大企業、大農場などを国有化する」と発表したのである。私は神や仏に見放されてしまったのか：全身に痙攣が走った。

幻の青い石、一攫千金に賭けて

ハジ・サクメを訪ねると、ティンディガ族にサファイアのありかを知っている男がいる。探鉱する気があるなら案内するという。嘘か真か分からぬが、一攫千金に賭けてみようか。資金も心細くなっていた。

ティンディガ族は狩猟採集民族で、嚙ミタバコ、塩、砂糖、大麻(麻薬を土産として持参すれば、交渉は成功するだろうという。早速、準備を整え、ティンディガ族部落の捜索に出発した。南下を続け、木材を組み合わせ、屋根には枯草を敷き詰めた小さな家々が立ち並ぶ集落に着した。村長に青い石の話をする。その石のありかを知っているのは「テミアンダだろう」という。彼は集落には寄り付かず、妻を連れて狩猟をしながら旅を続け、2、3 週間一度ひよっこり現れ、持ってきた毛皮や乾燥肉を塩や砂糖と交換



▲ ケニアの大自然に生きるマサイ族

するのだという。

村長の家で持参したタバコや塩、大麻をティンディガ族に分配し、テミアンダを捜すための助っ人を雇うことにする。村長の命で、アッシとトンボという二人の中年の男が私たちの旅に同行することになった。テミアンダの追跡を開始して 3 日後、焚火の後を見つけ、ついに屈強な体躯の持ち主の彼を発見した。アッシとトンボを通じて、持参した土産を見せながら、テミアンダに青い石の発見場所に案内してくれるよう交渉した。

「女房の出産が近く、今は行けないが、10 日待ってくれば青い石を持つてくる」とテミアンダ。腕に小枝で 10 本の線を引き、「太陽が真上に来た時、このバオバブの大木の下に来る」という。私は何度も念を押して、テミアンダに持てるだけの土産

を渡し、10 日後に出直すことにする。

3 度目の挑戦、夢は実現するか…

約束の日、私の心は一点の曇りもなく、テミアンダとの約束の地に直行した。が、午後になってもテミアンダは現れない。ついに夕刻。バオバブの下にテントを張り、焦燥感の中で眠りにつくのは容易でなかった。翌朝、アッシとトンボをテミアンダの捜索に出す。翌日の午後、ようやく彼らと一緒にテミアンダは、私のキャンプにやってきた。弓矢を背に着け、槍を持ち、女房は乳飲み子を抱えていた。前回会った時の精悍さは消え、バツの悪そうな顔つきだ。アッシとトンボからも、いつもの、陽気さ無邪気さは消えていた。アッシとトンボがテミアンダに「青い石はどこだ」と詰問する。「青い石は見つけられなかった」とテミアンダ。私は全てを察した。悪夢を見ているような気分、夢が遠退いたことを悟った。約束は嘘だったのか。ティンディガ族に伝わる青い石の伝説は、嚙ミタバコや塩、砂糖、欲しさのためだったのか。テミアンダは女房を促し、沈黙のまま立ち去って行った。

その晩、私は一睡もできず、三度にわたる死に物狂いの闘いで、精根尽き果てた自分を見つめていた。すでに 12 月。タンザニアでは夢の実現は無理のようだ。ケニアに行く決心をする。テミアンダよ、お前は俺を騙したのか、違うよな、と自問自答しながら…。(次号に続く)

◆函館下町
ちよびつと昔語り

「去レヨーツ!、
去レヨーツ!」

函館在住 廣瀬菊枝 (16 回生)



昭和三十年代頃の真冬、函館山麓、ロシア領事館前船見町幸坂。坂天辺から小さな櫓(そり)に片ひじ片足を乗せ、他の片足を櫓の後ろに伸ばし巧みに舵をとり、零戦の特攻隊員のように雪煙を上げ、鼻もほっぺも真っ赤にして精一杯声を張り上げ、いぶし銀の函館港をめがけ次々に滑り去る勇敢な男の子達。滑っては登りの繰り返しは、冬中の彼等の日課であり、真冬の函館の風物詩でありました。

戦前はこれが、
「去レヨーツ! 去レヨーツ! 去らねば山からモッコ来るぞ!」
だったそうです。皆さんはこのモッコとは何だと思いませんか。何と「蒙古」だと言うのです。お話を

聴かせて戴いたのは当店のお客様であった元産婦人科医院長の故岡本杏一先生です。

【*「北の元寇と東日流(つがる)安藤水軍」函医時報 1990N037 函館市医師会 *「日持聖人」函医時報 1995N042 函館市医師会】

さてモッコなる言葉は実は津軽に漂着した蒙古の残兵か、十三湊の安東水軍に助けられた老岐対馬の住民の言い伝えである蒙古兵であることがわかった。

文永・弘安の元寇は北九州に限っての戦いであったが、蝦夷と蔑まれ幾度も征夷の名で征討の憂き目を見た多数の津軽の人々の参戦と、多大な犠牲のあったことや、恐怖におののく老岐対馬の住民を必死の思いで平和な津軽に救出した事実、そして東北の住民の誠実さと優しさも知った。

そして間宮海峡を挟んでアイヌと蒙古の戦いもあり、もしもアイヌの人々が頑強に戦ってくれなかったら現在の北海道はどうなっていたらうか。元寇は南の九州だけでなく北の津軽や樺太にもあったが、歴史には残らず、津軽の子守唄として残っていた。

♪ オライのメゴゴア 泣くなデヨ
泣けば海から蒙古来るえー
泣かねば山からトト(父)もどる

文永、弘安の元寇の役で元と戦った津軽の安東水軍の戦士が見聞き



した、老岐対馬の住民に対する元寇の行為の伝聞や、古代から親交のあった樺太のアイヌの北からの元の軍政の樺太への苛烈な侵攻の情報が、津軽の民衆に代々伝えられ「蒙古↓モッコ↓恐ろしい人」の伝承に成った。

東日流の海の末裔たちが箱館の船見町(昔は船乗りの町)に住み着き、子供達に小さな櫓を造り与え、昔聴いた子守唄からこの言葉を教えたのではないかと。

遙か昔、日本海と津軽海峡は人・物・文化等の情報網・交流網が張り巡らされていたと云います。特に、冬場、中央からの巡検が滞ると、十三湊は北方・南方から大波小波で人・物・文化等の情報と共に密貿易、沈黙貿易・交易が成り立ち、日本海対馬海流・津軽海流は、現在の私たちが想像している以上に情報・物流ハイウエーであったようです。

(2018.10) 二等席 菊 (了)

何か変に感じた、
函館の観光政策

佐藤雅英 (18 回生)

台風 25 号の余波が残る 10 月 7 日午後 6 時、函館国際ホテルにおいて、4 年振りの西高 18 回生同期会が開催された。遠くはパリから、国内は熊本県八代から、東京地区から 18 名と合計 108 名が集まり、全員の集合写真後、クラスごとのテーブルで、2 時間半の宴が進行し、二次会にも 80 名余が集まり、3 次会の終わりは日付が変わっていた。

9 日まで在函したので、函館の観光について考えてみた。一番驚いたのは鳴り物入りで建設した北海道新幹線の「新函館北斗駅」が使い勝手が悪く、もの珍しい期間が終わるとあまり活用されていないのである。「はるばる来たぜ函館へ」よろしく、新幹線下車後、函館市内や次の観光地へのアクセスが不十分で、このままでは航空機優位のままで推移する。

聞いた話では外国人は新幹線を使わず、大間までのフェリー航路を利用して、その先は鉄道を使って移動しているという。このように内外の観光客が何を望んでいるかのリサーチが不十分なままでは観光都市函館の名折れである。来年 1 月末には駅前の棒二森屋が閉店する、一つ百貨店が消え、寂しい思いが残る。

観光客や市民がゆっくり散策や買い物することや滞留する場所である商業施設がなくなり、駅前寂しさが増大する。

半面、今駅周辺は商業施設を盛り込んだホテル建設ラッシュが進む。観光都市運営のビジョンがちぐはぐである。古い人間には函館らしさが消え、たとえ宿泊態勢が充足しても、トータル的な観光地としての受け入れ態勢が不十分と感じる。例として今年函館港には15隻の大型客船が寄港し、多くの観光客でそれなりに賑ったが、課題も多かった。

例えば一度にバス100台分の手配や駐車場のあり方や観光地としての受け入れ態勢が十分とは言えなかったようだ、いやな言い方をすれば函館市内は道幅が広いので、バスは路上駐車です十分と思っっているの



整備後のイメージ写真

か？さらに平日昼間の市役所周辺の駐車場は公用車が多く見受けられ、駐車場の有効活用のためには、行政内部の調整が必要である。九州・福岡市では50隻以上の大型船を受け入れているが官民挙げての受け入れ態勢が5年が経てやっと整ったと聞く、来年は40隻が予定されていると聞くとどう対処するのかと不安になる。

また、今冬は雪が多く元町周辺の観光スポットも積雪が多く雪道や雪解け道を短靴で歩く観光客も多く見受けられたと聞く。雪と観光をもっと親しんでもらうためには長靴サービスや軽便な乗り物サービスの検討が必要である。

函館山のロープウェイの運行も課題がある少々の強風でストップしてしまふ、山からの景観を売りにしているのにその機会が奪われることが多い、ロープウェイが休止の場合は大量輸送が可能なバスをもっと運行すべきと考える。そんな新しい観光スポットの創設も重要である。

滞在型観光都市を目指すなら、他都市の例を参考に考えたらどうか、例えば弘前ではバーチャルリアリティ（VR）や拡張現実（AR）を使って、弘前城の新たな魅力づくりに寄与している。お隣北斗市では4年前に木地挽高原に新たにパノラマ展望台を造った。標高560mの360度展望台から、北を望むと大沼・駒ヶ岳越しに噴火湾・羊蹄山が見え、

作家・森真沙子さん新シリーズ『柳橋ものがたり』発売中です

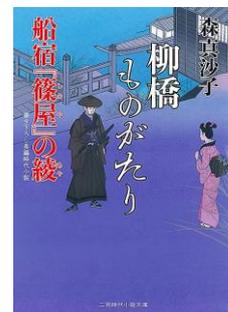
西高11回生の作家、森真沙子さんの新シリーズ第1弾「柳橋ものがたり 船宿『篠屋』の綾」が8月末に刊行されました。

物語の舞台は、幕末に新興の花街として江戸一番の人気となった柳橋。主人公は、訳あって柳橋の入り口に建つ船宿の女中となった武家の娘・綾、28歳。

当時の柳橋には、窮乏したお家の借金を背負って、花街に身を沈める幕臣の娘たちも少なくなかったといひます。彼女らが柳橋を選んだのは、伝統に縛られた吉原より、約束事の少ない新興の町が入りやすかったからだとか。

柳橋を愛したお客には、幕臣をはじめ土佐の山内容堂などの大名も多く、明治になってからは伊藤博文や山形有朋などの元勲の姿もありました。主人公、綾が遭遇した思いがけない事件の行方に、歴史上のエピソードや秘話も織り交ぜ、江戸から明治へ時代の変遷を生き抜く庶民が描かれていきます。

★購入は近くの書店で注文するか、二見時代小説文庫(<https://www.futami.co.jp>)オンライン書店で。定価 700円(税込み)。



東に横津岳、南の眼下には函館山や下北半島が見え、天気が良く素晴らしいロケーションだった。近くにコテージとキャンプ場を備えているが、11月から4月中旬までは休みとなるが、その間は近くのスキー場の出番である。

函館市内で新たな自然を介した観光スポットを創設するには無理があるが、既存の観光資源を活用し、インバウンドや来年のラグビーワールドカップ、その先の東京オリンピック・パラリンピックに向けて対応できるDMO（DESTINATION）（ジョン・マネージメント・オーガニゼーション）創りが観光都市函館の今後に繋がっていくと信じる。(丁)

東京臥牛会

ゴルフコンペのご案内

このコンペは在京の函館公立高校5校(西・東・中部・商業・工業)の同窓会の親睦を目的として発足し、今回は5回目を迎えます。

日程 平成31年4月15日(月)

会場 紫カントリー あやめコース

で開催されます。同窓生の皆様ふるってご参加ください。

詳細は、三村寿雄(13回生)まで。

(090-8513-4497)

* * *

◆寄稿 失われた青春の軌跡(2)

松田 守正(2回生)

《前号から続く》

旅荘『松やま』で療養した保養3ヶ月は、日に3・4回の入浴と祖母の部屋での在宅看護婦・太田くさん(31歳)による軽めの規則正しい運動指導。一緒に逗留していた祖母は半身不随ながら夫助八を「世界のサルベージ王」と言わしめた女傑の威厳を漂わせ呂律が回らぬものの、私に他人とのつき合い方や生きた金遣い法をかたててくれた。温泉療法の効果で脳発作の起きる頻度は激減したが、日に1度はどす黒い血餅を含む大量の血を吐いた。体重も38kgを切り眼窩は窪み鏡に映る顔は正に髑髏のように。彼女は、血餅が氣道を塞がぬように私の口の中に手をつまみかきだしてくれ、痙攣が始まると舌を噛み切らぬようにと歯の間に割箸を噛ませたりもした。

そんな日々、見違えるほど気力体力が回復。祖母が太田さんに伴われ沼津国立病院に入院することになったことから、私は叔母夫婦やお世話いただいた方々に見送られ、再度函館に戻った。

実家で久しぶりに父母・長男夫婦

と子供たち・妹らと再会し、今後について話し合った。帰京した翌日、かつての母の教えに従い母校に恩師を訊ねた。恩師の生まれ故郷で小・中学校の教員が不足し、廃校の危機に晒されている山村がある。代用教員制度に基づいて修業と教員資格を取得する道を歩んでみたら? 推薦状同封の手紙を携えて恩師のもとを訪ね、ひと月後には、檜山郡厚沢部村俄虫の村立俄虫小学校の教壇に立った。都会の学校と違い教科内容の指導よりも、諸々の生活上の問題への対応が主たる果たされる仕事となった。

私は、裕福な家庭で育ちながらも三男坊として、明治生まれの両親に学業に勝る教えを数多く学んできたことを改めて深く感謝したのだった。就任当時から、下宿先の家族は勿論、道端で見かけたり行きかう当地の住民の皆さんに、はつきり目を見て笑顔で就任の挨拶をお国訛りでし、すぐ仲良くなれた。スタートは、1年生の補助担任。研修期間終了時には5・6年生複式の担任を任せられた。俄虫で過ごした2年間は私にとって『人間としての真の価値は、人々の中にあつて育まれ開花する』と言う人生哲学の悟り? だった。

帰郷後、熱海でお世話になった太田くさんとは頻繁に健康状態の報告や近況を伝える文の交換をし、的確なアドバイスをいただいた。大正12年4月1日生まれ彼女は、

静岡県駿東郡清水村の豪農の7人兄妹の4女で末娘。当時未婚であった。昭和29年の秋「そろそろ再上京して大学に復学したら?」彼女からの勧めで大学に戻る決意を両親に告げた。大学へは復学の手続きをし10月には再度大学生として復帰を果たすまでになった。

私は大学で親しくなった品川区在住の友の紹介で同区旗の台に4畳半ひと間・狭いお勝手と玄關・押入・トイレは共用という家賃が三五千円の借家住まいを始めた。友人が経営する私塾の講師としてのアルバイトで得た報酬を基金に、寝具1式と家賃3ヶ月分を支払った。

くからさんから重要な話があるの。で東海道線の国府津駅に来てほしいと日時の指示があり、久々に彼女にあつた。御殿場線の車中で「あなたとの重なる文のやりとりで2人にとって今後は一緒に暮らすべきと決意した。色々な意味で2人とも家族の猛反対に合うだろう。我が家の家系で唯一理解をし応援していただける母方の伯父が御殿場について、今日2人で相談に行く」と連絡してあるの。あなたもすっかりと気持ちをおつけてネ」。

初めて乗車した御殿場線の車窓からの景色の移り変わりを楽しんだ。ふたりは並んで腰かけ、彼女から御殿場の伯父のことを色々聞いた。23歳で結婚と同時に分家し、夫婦力合わせて野菜・果物・日用品等の行商から始め生来の生真面目

さと「機を見るに敏」などところから：大八車↓屋台↓店舗と進化を遂げるのに驚くべき3年間の速さだったという。

御殿場駅から至近の瀬田家は立派な店構え。店の7割程に県下の高級品残りには日用品の数々が。案内を請うと品の良い初老の夫人が笑顔で腰を折る。「家内です。まあ! おくちちゃん。しばらく見ないうち奇麗で立派な女性になられて。失礼しました」私を涼やかな眼差しでじつと見つめ：「松田の旦那さんのご三男の守正さんネ。とんでもないご災難で生死の境を長いことさ迷われていたのですってネ。姪のおくちがお役に立てたようでご本當に宜しかつたわ! 夫がお待ちしていますのでご案内いたしますネ」。

広い店の奥の重厚な引き戸を開けると、中庭に。どっしりとした土蔵・伽羅木を配した築山・その周囲には銀鯉が多く泳ぐ池が。馬小屋には栗毛のがっしりした生馬と小屋の脇には手入れの届いた馬車が。母屋の前には日焼けしがつちりした体格の主が手を招く。胸板が厚く、首が太い。母屋の客間に通され瀬田夫妻と対峙した。

伯父の配慮と伯母の心を込めた郷土料理をいただいて幸福感に浸り、茶を賞味しながら姿勢を正して伯父の話を聴く。「守正君とは初めてだが、ご両親とは何度もお会いしている。正直なところ、親父さんはあまり好かん。でも、おふくろさん

は実にできた方だ。学は全くないが、体で身につけた財産は誰にも負けない。おくらが三十路まで多くの見合いを蹴ってきたが、わしに松田家三男の守正さんに是非会って伴侶に足る男性か？見極めてほしい、とおくらから申し出があつたので今日の運びとなつたというわけ。

一生添い遂げる覚悟があるなら、人を頼ってはならない。苦しいとき・土壇場に追い込まれたとき『人間の価値』は決まるんだ。守正君！家族・親族にはすがってはいかん、どうにもならなくなつたら俺の処へ来い、大八車と売り歩く品々を用立ててやろう。でも、おくらが付いていればその必要はなかる。愚妻からはなむけの品を贈るから、列車の中で開けて見てな。じゃあ列車の時刻が迫っているで駅まで一緒すべか？夫婦して御殿場の上りホームまで見送りに。2人は車窓に手を振る瀬田夫婦の頼もしげな姿に深々と頭を垂れた。

列車が駅を離れレールに心地よい響きを刻み始めたのを見計らつて、2人は袱紗に包まれた品を開いた。中には今日・明日の伊豆湯ヶ島温泉隠れ宿『桂山荘』の宿泊予約券と必要な列車・バスの旅行券。そして「2人の荒波への船出前に婚前旅行で夫婦の絆をしっかりと結びな」とメッセージが付されていた。

心憎い配慮に涙した。湯ヶ島温泉の想い出は独り身になつた今でも峻烈である。9年前の如月7日先

立った愛妻の面影が色濃く残る旅だった。

2人は夫々に実家の戸籍から除籍手続きをとり昭和30年春、彼女は独り上京してきた。東京駅に出迎えると、彼女は和服姿でかなり大きめに梱包した荷を携えている。近寄つて労をねぎらう。荷は漆塗りの鏡台。彼女のとても大切な一品で文字通り「女の鏡」なのだ。

四畳半一間の家に彼女を誘う。顔馴染みの食料品店お親父さんからプレゼントしてもらつたりリンゴ箱を並べた上に唐草模様の風呂敷を。これが卓袱台代わり。落ち着いたところで、至近の商店街で最低限必要な什器類を揃えた。彼女の身の回りのものはチツキで最寄り駅に届く。吉日を選び、品川区役所に。新たに本籍地を設定し、婚姻届けを提出晴れて夫婦になつた。大森駅でチツキの受け取りをし、帰宅して収納。ご近所さんへのあいさつ回りをする。これも忘れてはならぬ大切な常識だ。

(誌面の都合で次号に続く)

* (まつだ・もりまさ)

51年、代用教員、正教員を経て52年、学習院大学に編入、現天皇のご学友となつた。現在は児童の心身教育のため寺小屋や子供道場などを開催し、ボランティア活動を行っている。80歳を超えて作家デビュー。月刊「ねこ新聞」などで活躍。祖父・助作は、サルベージ王として名を馳せた人物。

* * *

年会費振込用紙 からのメッセージ

【平成30年に年会費を振込まれた方からのメッセージを掲載しました】

浅岡文子(高31) 会報楽しく読みました。ますますのご活躍を祈ります。私95才最高齢でしょう？まだ元気なのは、あの坂を登つた御かげかしら。

原田美恵子(高34) 92才になりました。元気で暮らしています。

栗原達子(高37) 元気にしております。会の発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

佐々木トヨ子(高39) 「つゝじヶ丘だより」ありがとうございます。

鈴木八重子(高39) アジア学生文化協会会員です。

相馬洋子(高41) (相馬洋子)は、4月23日に亡くなりました。今回まで会費をおさめさせていただきました。長い間お世話になりました。

太田良子(1) 「つゝじヶ丘だより東京」毎回楽しみに拝読しております。長く続きますように！！

井守右二(2) これまで一度も出席したことなく申し訳ありません。東京で同期会には毎回顔出しております。

増谷純雄(2) 大戦終結の翌年に旧制中学(函館市立中学校)に入學して72年が経過した。改めて感慨深いものを覚える。

賀川勢津子(2) 本人は、グループホームに入所中です。

長澤清司(3) 7月に京都へ転居しますので退会します。

原加代子(3) いつもお世話になり有難うございます。同期の橋本力様が亡くなられたこと、とても残念に思います。

小島将(3) 関係各位のご配慮に感謝いたします。ますますのご発展をお祈りします。

辻川京子(3) 昨春秋になつかしい山と海に囲まれた古里の青柳町に転居いたしました。穏やかに緩りと老いの時をおくりたいとおもいます。お世話になり、ありがとうございます。

保田弥寿彦(4) 平成29年9月本人が他界しました。長い間、大変お世話になりました。

高橋秀演(4) 20号に拙文を載せて頂き、恥ずかしい気持ちですが、でも本当に嬉しく大変感謝いたします。有難うございました。

札内達也(5) 「つゝじヶ丘便り」なつかしい気持ちで拝読、特に三村先生のこと何度も読み返しました。

藤代カヨ子(5) いつもお世話様になっております。どうぞ よろしくお願い申し上げます。

白井佳代(5) いつも連絡ありがとうございます。

吉田修三(5) 幹事の方々、ご苦勞様です。

尾島由紀(6) 会報いつもありが

とうございます。今号は特に内容が濃く、読みごたえがあり、いろいろ感ずるところがありました。通りの写真も懐かしかったです。亡くなられた同窓生の事を思い出されます。

村田チサ子(筆名 麻生直子)(10) いつもお世話になっていきます。この度、詩集『端鏡の海』(2018.6.30 発行・思潮社)が第52回北海道新聞文学賞に決まり、11月20日に授賞式があります。

木村芙美子(10) 夫が大動脈解離、肺炎とで入院を繰り返して織り、要介護5の介護に疲れ切っていますので今回の振込を最後にしたいと思えます。

岸田信高(11) 原稿掲載、感謝します。20人ものボランティアのお手伝い、ご苦勞様です。よろしく。

《祝》
麻生直子(村田チサ子)(10) 詩集『端鏡の海』(はきょうのうみ) 第52回北海道新聞文学賞 (詩部門) を授賞。

奥尻地震の犠牲者への鎮魂など「力がこもって読み応えがあった」。評論活動などさまざまな形の詩への貢献も含め、本賞に決まった。(北海道新聞より)



坪井多恵子(11) 「つゝじヶ丘便り東京」いつも楽しく読ませて頂いております。

高橋洋子(11) いつもお便りありがとうございます。

岡田修二(12) 「つゝじヶ丘だより東京」をありがとうございます。

根本弘子(13) 係様、お世話になります。訃報のお知らせは、とても淋しいですね。元気な内は参加させて頂きます。

山崎和雄(13) 役員の皆様大変ご苦勞様です。お陰様で「つゝじヶ丘だより東京」を楽しく読ませて頂いております。

大森直之(13) いつもの事ながらご苦勞様です。残り少ない、勝手にわがまま老人をまとめるのは大変でしょうが、よろしく。

綱裕子(14) 皆様のご健康をお祈りいたします。

佐々木一博(14) 二次会は、行けるので連絡を!

中村宏子(14) 連絡有難うございます。来年又皆様に会えるのを楽しみにお互い元気に過ごしましょう。

猪しまこ(16) いつも大変お世話様です。今回の「つゝじヶ丘だより」も懐かしく面白く読ませて頂きました。

中川孜(16) “故郷は遠きにありて思うもの”時に青春の思い出に浸っています。

林道子(17) お世話様です。「つゝじヶ丘だより」を楽しみにしております。

花田貴宣(18) 三村治子先生の画集を観たいです。

石橋洋美(19) 校名が変わるとの事ですがぜひ「つゝじヶ丘」高校を希望します。

小柳泰博(20) 宜しくお願いします。

矢澤弥生(20) いつもお世話になります。ありがとうございます。

二階堂功(20) ボランティア活動と、筋トレに挑戦中です。

藤浦ようこ(21) 西高の名前が無くなるのは淋しいです。

姥久手崇・悦子(24) いつもありがとうございます。

眞鍋宗孝(20) 「つゝじヶ丘便り」、楽しみにしています。毎回の送付ありがとうございます。

中川喜久則(31) 来年は、東京に行きたいです。

◆ 回生だより

27 回生 札幌で開催

6月16日の土曜日、6時からホテル札幌ガーデンホテルにて、同期会が開催されました。前回の時に還暦記念の要望があり、今回の開催となりました。出席は男性10名、女性12名の計22名と若干前回は下回りましたが、旭川や卒業以来の参加者もあり、昔話に花が咲きました。当日の札幌は寒いくらいでした。

2時間半の懇親のあと別室での



お疲れ様でした。また今回参加出来なかった方、是非次回は参加下さいね。10月6日に函館でも同期会を開催致します。(野口 卓史)

13 回生 今年初めての開催

7月8日(日)、ビアダイニングガーデン汐留で今年初めての38会を開催しました。16名も集まり皆元気な姿を見せ楽しいひと時を過ごし、言いたい事を勝手にしゃべりいつもの38会です。今年10月





には函館で2年に1度の38会が開催される連絡をして皆さんの参加をお願いしました。二次会は恒例のカラオケに場を変えほとんどの人が参加しました。来年は、殆どの方が後期高齢者になりますが、仲間での集いは高校三年生から変わらずです。(斎藤勝美)

「吉田先生を囲む会」開催

9月15日(土) 昼12時より3時間 銀座・吉乃翔にて「恩師・吉田先生を囲む会」と題し25回生古館様、29回生熊谷様、三上様、桂本様と32回生9名が中心となり合同同窓会を開催致しました。

闘病中(透析)の吉田先生も無理をおして参加下さいました。中には札幌より三上様、和田様、名古屋より山崎様も遠方から参加下さいました。年齢差を超えて和気あいあいと会話も進み、後半はどが誰の席か分からなくなると言ったあたりまででした。

2次会は吉田先生をお見送りした後、全員参加で近くの高級中華店にだれ込み中華料理に舌堤。こ

れからもお互い連携取りながらもつと繋げていきましようという硬い約束を交わし有楽町駅前で解散となりました。

今回の同窓会は共通の恩師に導いて頂いたものと感謝致しております。(長谷川好広 32回生)

2回生 恩師を招き同期会

今年も昨年同様10月第二土曜日の13日、銀座四丁目銀座クリスタルビル(通称フジヤビル)7階の「桃杏楼」で行われました。雨模様ですが心配しましたが雨もなく予定通り12時より開催されました。

毎年参加者が少なくなり、今年も遂に20名を下回る16名という事で開催されました。案内状は50名ほどに出しましたが高齢等色々な事情もあり少なくなってきたのは止むを得ない事と思っています。

我々2回生は昭和8年・9年生まれ85歳以上の方々がメンバーですが、なかには車椅子や付添いの一緒の方もいました。皆西高時代の想い出話で花を咲かせ敬語抜きは勿論の事、渾名で呼び合いながらの談論風景で午後3時までの楽しい時間を過ごしました。さすがにアルコール量や食事の量は半分減りましたが、お喋りの方は昔以上の量で賑やかなひとときでした。

我々の同期生は旧制中学校・高等女学校の最後という事もあり函中・高女・女子校各校からの生徒の



集まりという事もあり話題は豊富だった様です。例年通り恩師としての大谷康子(旧姓工藤康子)先生も元気な様子で参加

していただき本当に座が盛り上がり心から感謝した次第です。また遠く札幌から3名・鶴岡からも1名と参加していただき楽しい話題も提供してもらい感激した次第です。

今後の事は皆85歳以上となり良く判りませんが皆の元気さから考えるとまだまだ頑張れる様で安心した次第です。年に一回の集まりですが本当に有意義に過ごせました事に感謝しております。(納代鉄也)

17回生 同期会

今回10月21日の同期会は、6月に函館で開催された古希同期会の席で、函館在住で水産業関連の仕事をしている同期の申し入れで実現しました。東京での同期会にカニを提供してくれることになり、広い庭のある松田君宅での開催でした。少々遠いのと皆さん所用ありで



いつもより少人数でした。松田君は、ご存知のように刀匠として活躍しており、顧客に白鵬や俳優の岡田准一を持

ち将来を期待されています。千葉の田舎での楽しいカニパーティーとDVDによる過去の同期会や松田君のプロモーションを見て、昼から夕方まで話の尽きない楽しい同期会でした。(竹澤秀明)

本部・支部との交流

つじヶ丘同窓会本部総会

会長 佐々木太郎(14)

10月5日(金)、函館の五島軒で開催された総会に来賓として出席してまいりました。出席者は約220名、中山会長の挨拶ではじまり、総会、現役在校生吹奏楽局のメンバー41人による演奏の後、お酒の入った懇親会へ。

来年4月に稜北高校と統合して新設される新しい高校の校名が、(今までと同じ)函館西高校となること、10月5日の道議会で決定



幹事団に入っ
て商品
などの
プレゼ
ンター
として
活躍し
ている
様を見
て、さ
すがお
膝元の
総会だ
と感じ

される予定だったのですが、9月6日に発生した地震などの影響により、道議会が延期され10月10日に決まることになってしまったため、公式にはこのニュースをオープンできない中での総会になりました。しかし同窓生の川尻道議(14回生)から、今日道議会の委員会を通過したとの報告があり、盛大な拍手を浴びていました。

今回の趣向はビンゴゲームで、時間ばかりですがみんなの注意を集中させるためにはいい方法かもしれない。それと学校の中にある同窓会の部屋を整理して出てきた昔の資料などが、希望者に無料やごく安い値段で配られました。

総会の出席者数は東京支部の総会と大きく変わりませんが、現役の在校生を使つたイベント(吹奏楽)や、今年卒業したばかりの68回生が



入の促進
が課題と
なってい
るようで
す。今年
の話題は、
何といっ
ても来年
4月に
稜北高と
の統合で
新設され
る校名が”

ました。

札幌支部総会への出席報告

広報部 井田幸子(20)

10月20日(土)、札幌駅北口にある「ホテルマイステイズ札幌アスペン」で開催されました。9月6日未明には北海道胆振地方を震源とする地震があり、札幌では震度5強を記録し、全道が一斉停電となる災害が発生しましたが、札幌駅周辺では顕著な被害は見受けられず、ほつとひと安心の思いでした。

さて、総会には37名の同窓生が参加。恩師の小原孝男先生ご夫妻弘子夫人は西高4回生で教え子も元気なお姿を見せられていました。例年に比べて出席者が若干少なく、札幌支部の在席名簿では千人を超えることから、同窓会への出席と会費納入の促進が課題となってい

他校同窓会との交流

函館西高等学校”に決定したことで、ほとんどの出席者から母校の名前が残るのを喜ぶ声が聞かれました。

浅野元広支部長の挨拶が始まり、小原先生の若々しくハリのある祝杯の音頭に続き、恒例のビンゴゲーム、校歌と応援歌の斉唱と和やかなうちに終了。二次会は同ホテル内の居酒屋に席を移し、皆、若き高校時代に戻ったように、同窓生との旧交、親交をあたためることができたのではないかと思います。

また、この席上で、森真沙子ファン倶楽部にも14名の同窓生にご入会いただき、厚くお礼と感謝を申し上げます。

関東青雲同窓会

学年副幹事長 佐藤雅英(18)

5月26日(土)、12時30分から、新宿の京王プラザホテル南館5階で開かれた、「第34回関東青雲同窓会」に出席した。同窓会の生みの親である中村名誉会長も急遽車いすでの出席となった。

恒例の出席者全員の記念撮影に始まり、名誉会長・横井会長挨拶、来賓紹介・挨拶が終り、乾杯ののち宴が始まった。今回のテーマは「結ぶ」で、幹事期の36回卒業生の作製したドローンで撮影した映像や古

東京函商同窓会

副会長 高橋順吉(17)

7月7日(土)、第一ホテル両国で総会後の懇親会から出席致しました。開会挨拶・来賓紹介・新卒者紹介・初参加者紹介・祝杯・余興・抽選会・校歌・応援歌・万歳三唱・閉会挨拶の順で開催されました。

参加者は会員104名、来賓10名の114名でした。余興は、津軽三味線演奏(高橋流・高橋裕他1名)で迫力満点の演奏に感動しました。函館本部同窓会他来賓の方々との名刺交換を行い、道南会の方も多数参加しており、会話が弾みました。

抽選会はさすが商業で、全員に景品が渡ってもまだ残りが有る豪華な抽選会でした。

函館ラ・サール学園東京支部

学年幹事長 竹澤秀明(17)

総会・懇親会は7月14日(土)、明

治記念館で開催されました。当日は、猛暑の中来賓を含め 231 名の参加でした。私は 2 時間の総会の後 16 時半から 2 時間の懇親会から出席をしました。

今年ラグビー部や陸上部の活躍に大いに盛り上がった懇親会でした。会費も卒業年度により格差をつけて参加しやすい方法を取っていました。また進学校の強みで上京者も毎年おり、大学生の参加者もいて羨ましい限りです。函館ラ・サールは、現在は、函館出身者はごくわずか、また地方出身者は関東からも入学しているようです。

立食パーティ形式で、挨拶の言葉もよく聞き取れませんでした。料理も 30 分後には完食。近年は支部長が毎年交替するため、新支部長の挨拶と、さすが男子校と思つた余興のベリダンズの時は皆さん釘付けでした。

総会等の実務は、ある回生が行っています。これも毎年新人回生が増える強みです。全体的にフランクな男子校らしい懇親会でした。

函工同窓会関東支部

会長 佐々木太郎(14)

10月21日(日)、日暮里のホテルラングウッドで開催された函工同窓会関東支部同窓会に出席しました。出席者は来賓を入れて75名、松田昇巨人軍オーナー代行も出席されていました。

函館市が先日発表された市町村魅力度ランキングで第1位を京都から奪還したことが話題となっておりました。

同窓生の出席者は全員男性でしたが、全員に景品が当たる抽選会などの趣向もあり、楽しい会でした。懇親会の始めに科ごとの集合写真を撮ったのですが、来賓の集合写真も撮ったのはサプライズでした。

白楊ヶ丘同窓会東京支部

会長 佐々木太郎(14)

11月3日(土)、半蔵門グラウンドAで開催された第42回の大会に出席しました。他校では通常「総会」といいますが、中部高校の同窓会は「親睦大会」というようです。

出席者は177名+来賓10名、上は昭和16年卒業から、下は平成29年卒の19歳までと幅広い年齢層をカバーしていましたが、50歳になる学年を幹事に行っているため、昨年、今年、来年の幹事期3学年で出席者の3割を占めておりました。

アトラクションはバリトン歌手の松本稔弘のリサイタルでしたが、ピアノ伴奏は音大出の同窓生が担当していました。ここ数年同じ会場で開催していますがそろそろ手狭になってきたと会長はいささか述べていました。

事務局活動報告

事務局長 齋藤 勝美(13回生)

(平成30年6月～11月)

○6月2日(土) 会報20号送付作業

○事務局会議(2回)

8月25日(土)

・会報21号第1回編集会議

・会報頁建て及び日程の検討。原稿依頼確認・投稿原稿締切(10月末)

発行日(12月1日(土))を決定。

・本部、札幌支部、在京他校同総会

出席者の確認及び出席。

・会議出席者で暑気払い。

11月10日(土)

・会報21号第2回編集会議

・会報初校の検討及び頁建て12頁に変更と部数決定。

・平成31年度学年幹事会日程及び議

案検討。東大島で平成31年2月

9日(土)を予定。

・12月事務局忘年会12月16日(日)

に決定。

★同期会開催補助(年一回)

のお知らせ

東京支部では同期会の活性化を図るため、会員が同期会を開催した場合に開催報告を提出すると、年1回5千円の補助をしております。な

お開催報告は東京支部ホームページ「会員だより」に掲載されます。補助金の申請書のフォーム(書式)はホームページからダウンロードすることが出来ます。

会員の皆様へお願い

東京支部活動の充実のために年会費(2千円)納入に協力を

同窓会は年会費と総会・懇親会会費で運営されています。同窓会活動を今後とも維持・活性化していくために、会員の皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

《編集後記》

○今号は予定外に12頁になりました。前号から続く、お二人の壮絶で波乱の「軌跡」(次号完結予定)と廣瀬菊枝さんの連載寄稿、会員からのメッセージ等ボリュームのある号となりました。また、編集校了間際に麻生直子さんの受賞の報が入り、ぎりぎり間に合った次第です。

○『平成』最後の号ですが、ある意味今が「日本国」のピークの時代だったと後々に云われるのかも知れませんね？

○私のPCが末期を迎えています。長い間、編集に付き添ってくれた事に感謝!!。(若林郁雄14回生)

皆様の、出来事や思い出、旅行などの「投稿」をお待ちしています。